

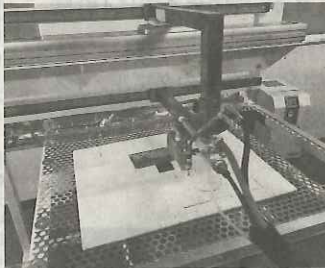
# 北関東 企業ファイル

2003年に印刷関連会社として設立したヒートマシンスーパービス（茨城県古河市）。印刷機に組み込まれた、印刷済みのインクを乾燥させる装置の保守を柱に、印刷機的设计・製造などを手掛ける。近年は塗装や接着の密着性を高める特殊表面処理装置も製造・販売。印刷関連以外の分野にも事業を広げ、収益源を多様化しようとしている。

## ヒートマシンスーパービス

### 《企業概要》

- ▽本社 茨城県古河市大和田968の111
- ▽設立 2003年
- ▽従業員 7人
- ▽売上高 約1億円
- (2018年2月期見込み)
- ▽事業概要 印刷機の乾燥装置の保守、CFS表面処理装置の販売



CFS表面処理専用の装置（デモ機）

## 特殊表面処理次の柱に

同社は10年にCFS（Chemical Flame Spray）表面処理装置、従来は接着や塗装が難しくだった基材への施工を可能にする技術だ。CFS事業は「この先、印刷機やポリエチレンなスマートフォン（スマホ）の保護ケースへのデザインのほかに、歯科医院で使うバキューム、酒類のガラス瓶などにも使われる。燃料電池車の電池カバーなど高い密閉性が必要とされる部品にも使われている。

た。もともと保守を手掛けている印刷機内の乾燥装置が炎を用いた仕組みだったこともあり、表面処理に精通した専門技術者を採用。10年にCFS事業部を立ち上げ、15年には同技術を使うための専用の装置で特許も取得した。

CFS表面処理は幅広い製品や部品に適用できる。環境保護への意識が高まっている中、ハイブリッド車の普及が進んでいるため「国内外の自動車メーカー向けの需要拡大が見込める」（坂本清司社長）。一般的な接着・塗装と比べてコスト削減ができるメリットもある。自動車の車体の塗装などでは通常、5〜6層にわたって塗装するため、使う塗料も多くなる。CFS表面処理を施せば、おおむね一度の塗装で済み、色も落ちにくいという。同社のCFS事業はCFS表面処理専用の装置の販売で利益を得ることが目的だ。これまでに医療機器メーカーや自動車のエンブレムを製造する企業などに装置を納めている。ただ、販売を始めてからの5年間で計5台と順調な売れ行きと

は言いがたい。幅広い用途が考えられるため、バーナーの形状など装置の製造は導入先の用途にに応じて変える。CFS表面処理を通じて顧客の要望通りに基材に接着・塗装できるとか、導入まで2年かかるなど、主力の印刷関連事業と並行して進めており「CFS事業の」営業に人員を割きにくい」（坂本社長）のが現状。このため、展示会や専門商社などを通じた販路拡大に取り組んでいる。ネットの普及で印刷業界が低迷する中、地道に装置導入の実績を積み重ねることで「CFS事業を将来の主力事業へと育て上げた」（坂本社長）と考えた。（水戸支局 生田弦己）

# 北関東

支局

水戸 0269-2221-3283  
 つくば 0269-8522-1033  
 宇都宮 0228-6222-1174  
 前橋 0277-2233-3115